

平成26年度
(平成25年10月～平成26年9月)

環境活動レポート



八幡自動車工業

ロゴマークの説明

- ・グリーンの色は環境への優しさをイメージしています
- ・センターの白線は永遠に続く道をイメージしています
- ・イニシャルのYは工具で技術をイメージしています
- ・社名のグレーはエンジンのメタリックをイメージしています

初版 作成日:平成27年3月16日

目次

1. 組織の概要
2. 経営理念・環境方針・環境活動・環境目標
3. 実施体制
4. 現状での改善課題と改善活動の行動指針
5. 環境目標
6. 環境目標の実績
7. 環境活動計画の取組結果とその評価と
次年度の取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び
評価の結果並びに違反、控訴等の有無
9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要

1 事業者名および代表者名
有限会社 八幡自動車工業
代表取締役 井上 邦広

2 所在地
本社事業所：大分県大分市大字横瀬400番地の1
出先事業所：三菱ふそうトラックバス(株)大分支店内工場（但し管理の範囲からは除く）
出先事業所：UDトラックス(株)大分支店内工場（但し管理の範囲からは除く）

3 環境管理責任者氏名および担当者、連絡先
責任者 代表取締役 井上 邦広
担当者 工場長 丹生 英司
フロント 松原 努
営業 岩本 憲一郎
業務 下司 遥香

連絡先 [TEL:097-542-3388](tel:097-542-3388)
FAX:097-542-1150
E-mail:info@yahata-cars.com
[URL:http://www.yahata-cars.com](http://www.yahata-cars.com)

4 事業内容
自動車の板金塗装並びに整備
自動車の販売
自動車レンタル業
自動車部品の販売
損害保険代理業
生命保険の募集に関する業務
上記各号に附帯する一切の業務

5 事業規模

活動規模	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	百万円	206	214	233	244
従業員	人	25	26	23	23
本社事業所	人	21	23	20	21
延べ床面積	m ²	2595.81	2595.81	2595.81	2595.81

6 事業年度
期首 10月1日
期末 9月30日

7 対象範囲
本社事業所での全活動

2. 経営理念・環境方針・環境活動・環境目標

◆経営理念

自動車業界を取り巻く環境は、経済の成長、科学の進歩とともに大きく変化しています。ますます便利になった自動車は、地球温暖化の元凶とされるCO₂を多く排出します。そこで各自動車メーカーはCO₂を削減させるためにハイブリッド車や燃料電池車(FCV)など次世代自動車を開発し提供しています。しかしまだ多くの自動車はガソリンや軽油などの化石燃料を必要としています。そこで適正なメンテナンスを行うことは、私たち整備工場はもちろんのことユーザー様にとっても社会的義務であるといえます。またCO₂の削減を計るということは、省燃費につながり経済的なメリットを得ることができます。そこで私たち八幡自動車工業の持てる技術と経験、ネットワークや情報をフルに活用してユーザー様に効果的なサービスを提供することは私たちに課せられたミッション（使命）です。そして、その使命を果たすことによって美しい自然を未来の子供たちに残し、ユーザー様に喜ばれ、そして企業として成長することで社員や家族の夢を実現させることができると確信しています。

「環境に優しく、お客様に喜ばれ、社員に愛される会社を目指す。夢の実現へ!!」

◆環境方針

自動車地球環境に及ぼす影響は製造過程からその使用に至るまで非常に大きいといえます。そこで自動車整備を任されている事業者として地球環境の保全、さらに向上を目指すために環境目標を定め、達成に向けた環境活動を推進いたします。

◆環境活動

- 1 事業活動に関する環境法規およびその他の要求事項を遵守します。
- 2 環境目標を定めて、定期的に見直し、継続的改善に取り組みます。
- 3 環境負荷の低減、地球環境を保全するために次の活動を推進します。
 - i) 報告・連絡・相談・声掛け・指示
 - ii) 車輛の入れ替え・駐車
 - iii) 部品手配・イラスト手配
 - iv) 5S運動
 - v) エコ活動
- 4 環境方針を全従業員に周知させるための教育を積極的に行います。
- 5 環境方針はすべての方に開示します。

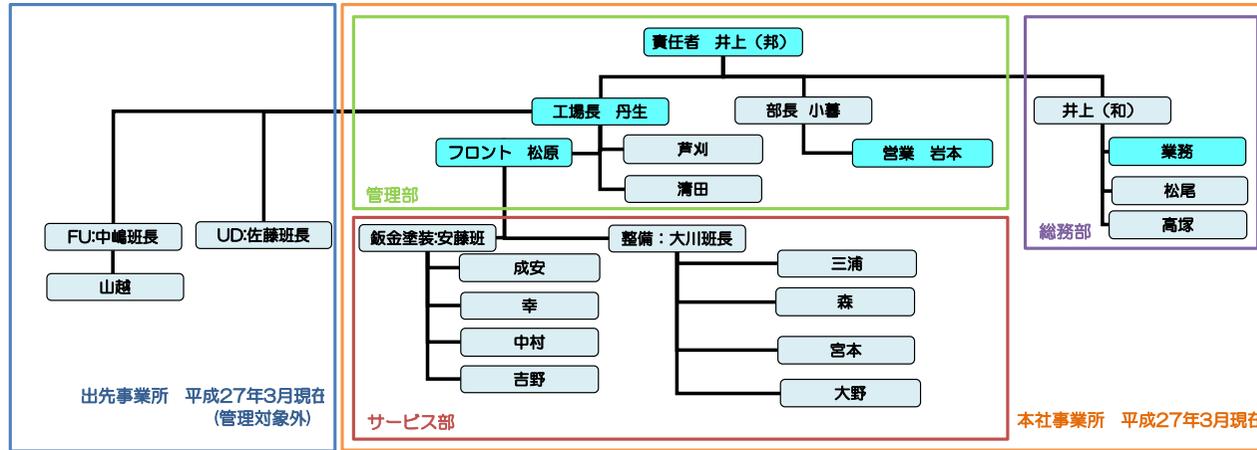
◆環境目標（環境負荷）

- 1 二酸化炭素排出量の削減
- 2 電気使用量の削減
- 3 ガソリン使用量の削減
- 4 軽油使用量の削減
- 5 廃棄物排出の削減
- 6 水使用量の削減
- 7 グリーン製品の購入
- 8 環境啓発活動
- 9 化学物質の適切な管理

平成25年9月1日

有限会社 八幡自動車工業
代表取締役 井上邦広

3. 実施体制



役割と責任

代表者	井上(邦)	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営の最高責任者 ②環境方針の制定、環境目標及び環境活動の承認 ③環境経営システムの評価、全般的な見直し ④環境活動計画の承認 ⑤環境管理責任者の任命
環境管理責任者	井上(邦)	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全体の構築・運営の責任者 ②環境経営システム実績等の代表者への報告 ③環境目標、環境活動及び環境活動計画書の確認、指示 ④環境目標、環境活動計画の進捗確認と修正の指示・実施 ⑤環境経営システムに関する問題の明確化と記録の総括 ⑥環境情報の外部への連絡 ⑦環境活動レポートの作成 ⑧教育と訓練の総括 ⑨緊急事態発生時の判断
担当者	下司	<ul style="list-style-type: none"> ①環境管理責任者の代行及び環境活動の全社的な推進 ②環境データの取りまとめ(集計) ③環境文書発行・管理の実務 ④その他、EA21事務全般
社員		<ul style="list-style-type: none"> ①環境方針、目標の理解 ②環境活動の理解と実施 ③環境法規制の遵守 ④緊急事態の予防策、対応策の実施 ⑤内部コミュニケーションの実施 ⑥改善の為の提案

4. 現状での改善課題と改善活動の行動指針



5. 環境目標

環境目標	単位	場所	基準年	初年度	2年度	3年度
			24年10月～25年9月 ＜実績値＞ 年度の総量	25年10月～26年9月 ＜目標値＞ 年度の総量	26年10月～27年9月 ＜目標値＞ 年度の総量	27年10月～28年9月 ＜目標値＞ 年度の総量
CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	本社事業所	73,861	73,122	72,383	71,645
電気使用量削減	kWh	本社事業所	95,538	94,583	93,627	92,672
LPガス使用量削減	m ³	本社事業所	42.80	42.37	41.94	41.52
ガソリン使用量削減	ℓ	本社事業所	9,618	9,522	9,426	9,329
軽油使用量削減	ℓ	本社事業所	5,571	5,515	5,460	5,404
廃棄物排出量削減	t	本社事業所	21.90	21.68	21.46	21.24
水使用量削減	m ³	本社事業所	209	207	205	203
化学物質の管理	kg	本社事業所	1,884	1,865	1,846	1,827
グリーン購入	リスト数	本社事業所	3	4	5	6
	説明		・作業服 ・リサイクル部品 ・ASKUL事務用品	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み
環境啓発活動	件	本社事業所	24	25	26	27
	説明		・月2回の交差点清掃	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み
売上実績	千円	本社事業所	190,192	192,094	194,015	195,955
入庫台数	台	本社事業所	3,646	3,682	3,719	3,756

（注記） 電気の二酸化炭素排出係数は平成22年度の九州電力の二酸化炭素実排出係数0.385を使用削減対象の数値目標は、基準年度に対して初年度-1%、2年度-2%、3年度-3%とする。その他の目標課題は、達成目標値を示す。

6-1. 環境目標の実績

環境目標	単位	場所	基準年	初年度	実績値 (H25.10~ H26.9)	目標達成 の判定
			H24年10月~ H25年9月 実績値	H25年10月~ H26年9月 目標値		
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	本社事業所	73,861	73,122	69,615	○
		(目標削減値)		739	95%	
電気使用量 削減	kWh	本社事業所	95,538	94,583	91,284	○
		(目標削減値)		955	97%	
LPガス使用量 削減	m ³	本社事業所	43	42	46.0	×
		(目標削減値)		0	109%	
ガソリン使用 量削減	ℓ	本社事業所	9,618	9,522	9,310	○
		(目標削減値)		96	98%	
軽油使用量 削減	ℓ	本社事業所	5,571	5,515	4,846	○
		(目標削減値)		56	88%	
廃棄物排出量 削減	t	本社事業所	22	22	25.0	×
		(目標削減値)		0	115%	
水使用量削減	m ³	本社事業所	209	207	212.0	×
		(目標削減値)		2	102%	
化学物質の 管理	kg	本社事業所	1,884	1,865	2,086	×
		(目標削減値)		19	112%	
環境啓発活動	件	本社事業所	24	25	26	○
		(目標増加数)		1	104%	
グリーン購入	リスト数	本社事業所	3	4	4	○
		(目標増加数)		1	100%	
売上実績	千円	本社事業所	190,192	192,094	199,063	○
		(目標増加額)		1,902	104%	
入庫台数	台	本社事業所	3,646	3,682	3,898	○
		(目標増加数)		36	106%	

(注記) 実績値及び目標値は、期間の実数合計値とする。

6-2. 入庫台数あたりの環境負荷実績

環境目標	単位	基準年	初年度	実績値 (H25.10~ H26.9)
		H24年10月~ H25年9月 実績値	H25年10月~ H26年9月 目標値	
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ /台	20.26	20.06	17.86
			0.20	89%
電気使用量 削減	kWh/台	26.20	25.94	23.42
			0.26	90%
LPガス使用 量削減	m ³ /台	0.01	0.01	0.01
			0.00	102%
ガソリン使 用量削減	ℓ/台	2.64	2.61	2.39
			0.03	91%
軽油使用量 削減	ℓ/台	1.53	1.51	1.24
			0.02	82%
廃棄物排出 量削減	kg/台	6.01	5.95	6.41
			0.06	108%
水使用量削 減	m ³ /台	0.06	0.06	0.05
			0.00	96%
化学物質の 管理	kg/台	0.52	0.51	0.54
			0.01	105%
環境啓発活 動	件/台	0.01	0.01	
			0.00	0.00
グリーン購 入	リスト数 /台	0.00	0.00	
			0.00	0.00
売上実績	千円/台	52.16	52.69	51.07
			0.53	97%
入庫台数	台	3646.00	3,682.46	3,898.00
			36.82	106%

7. 環境活動計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容

7-1. 改善活動の取り組み結果

取組内容			
報告・連絡・相談・声掛け・指示	整備	×	できていない者がいる
不具合報告・作業終了報告・ライン完成報告・作業指示・相談事・クレーム報告・仕損じ報告を素早くできていますか？	钣金	○	
	事務所	△	作業報告書の提出が遅い 記入漏れがある
車輛の入替え・車輛の駐車 車輛の入替え設置は毎日帰りにして ますか？引取り車両は各班長と打合せ してとめていますか？	整備	△	毎日というのが難しい 引き取り車両が適当に止められている
	钣金	△	毎日というのが難しい
	事務所	△	指定の車両置き場に止められていない
部品手配・イラスト手配 部品手配は追加報告手配、発注忘れ、 発注ミスなく出来てますか？イラスト 手配は素早く出来ていますか？部品納 期の伝達は出来ていますか？	整備	△	イラストへの記入漏れ 追加部品が発生してしまうことがある
	钣金	○	
	事務所	△	口頭による依頼などで発注漏れがある
5S運動 整理・整頓・清掃・いらぬ部品の処 分は出来ていますか？部品、工具、材 料は探し回るとは無かったですか？	整備	×	個人差があり全体としてはできていない 全体的に意識が低い
	钣金	×	不用となった部品が未処分のまま 預り部品が増えて片付かない
	事務所	○	
エコ活動 部品庫、工場、事務所内の人の居ない 場所や昼休みは節電をしていますか？ 消耗品のエコ活動は徹底してますか？	整備	×	消耗品に対しての意識が低い
	钣金	△	在庫の削減は行っているが使用量は変わらない
	事務所	○	

7-2. 評価と次年度への課題

①二酸化炭素排出量の削減

電気使用量、ガソリン、軽油の使用量は削減できたがLPガスは増加した。その結果、二酸化炭素総排出量は目標の95%、入庫台数あたりでは同じく目標の88%と削減することができた。改善活動は個人個人の意識レベルに差があり、課題点が多い。それぞれの課題点克服にむけて次年度も取り組んでいく。

②廃棄物の削減

総排出量、入庫台数あたりの排出量ともに目標値を上回っている。その増加量は売上実績や入庫台数の増加率よりも増えている。作業内容として部品交換を要することが多かったことから増加したと推測できるが、リビルト品などの供給先も増えつつあり再利用のサイクルに乗せて排出量の削減を目指す。

③水使用量の削減

総使用量は増加しているが、台当たり使用量は削減することができた。電気、ガスと同様に月ごとの実績値を掲示しているので引き続き削減意識を維持できるように心がける。

④化学物質排出量の削減

総排出量、入庫台数あたりの排出量ともに目標値を上回っている。その増加量は売上実績や入庫台数の増加率よりも増えている。年度上期ではH26年4月増税前の駆け込み需要や、エコカー減税措置などによるトラックの新車販売が好調だった。そのため全面塗装工事の受注増加、塗料の消費量が増加したことで排出量も増加した。次年度では受注状況も落ち着いてきたが、それぞれの工事で作業ミスなどで手直しが発生しないように工程管理を徹底する。

⑤グリーン購入の推進

帳票類・封筒・ユニフォームの購入。

⑥環境啓発活動

燃費改善商品などのサンプルを取り寄せ社内研修を行う。社用車でモニターし効果があればユーザーに紹介していく計画。帳票類の電子化でペーパーレスを行う。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境法規は環境法規詩登録表により遵守評価を実施しています。
遵守評価の結果、環境法規制の違反はありません。
関係機関からの指導や指摘はありません。
利害関係者からの苦情や訴訟はありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

9-1. 代表者による全体評価

環境目標達成に向けて改善活動に取り組んだが、それぞれに課題点が見つかった。とくに5S運動について、工場現場では非常に意識が低いという自己評価だった。結果として二酸化炭素の排出量は目標値を下回ることができたが、廃棄物や特定化学物質の排出量を下げていくためには個々の意識レベルを上げていかなければならない。美しく整理整頓された環境でムダやムリのない作業を行うことでミスやロスを無くすことは、コストの削減にもつながる。結果的に利益の内部留保となり自分たちへ還元される。マクロ的な視野を持ちながら県境活動に取り組んでいくように指導していきながら個々の意識レベルの向上をはかる。

9-2. 見直しの結果

項目	見直しの結果
環境方針	継続する。
環境目標	継続する。
環境活動	継続する。
マネジメントシステムの仕組み	継続する。

平成27年3月16日
代表取締役 井上 邦広